

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 岡山県
都道府県 岡山県
対象地域 津山地域
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

近年、追肥作業の省略のためプラスチック被覆肥料が使われているが、当該地域においてもプラスチック被膜殻の河川等流出による環境への影響が懸念されている。また、夏場の高温等により緩効性肥料において肥料成分の溶出が早まり、追肥が必要になることが増えている。このことから、プラスチック被覆肥料の代替肥料である硫黄被覆肥料、ウレアホルム入り肥料の効果が確認され、プラスチック被覆肥料の代替肥料が地域に普及すること、農業用ドローンを使用した追肥の省力効果が検証され、省力化技術として普及することを目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		移植 施肥		追肥			収穫						プラスチック被膜肥料を施用する場合でも葉色を見て必要に応じて追肥を行う必要がある。
技術名		側条施肥（プラスチック被覆肥料）		種肥（青い稲穂等）									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		移植 施肥		追肥			収穫						
技術名		側条施肥（プラスチック被覆肥料の代替肥料）		種肥（農業用ドローン）									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	245 ▶	245	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.8 ▶	10	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.8 ▶	40	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.8 ▶	10	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被膜肥料の使用	▶ プラスチック被膜肥料の代替肥料の使用	プラスチック被膜肥料の流出防止
省力	背負い動噴等による追肥	▶ 農業用ドローンによる追肥	作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチック被膜肥料の代替肥料の使用面積（ha）	0.8	▶ 40	
省力	追肥への農業用ドローン活用面積（ha）	0.8	▶ 10	

- * 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
- * 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

プラスチック被覆肥料の代替肥料の活用、追肥への農業用ドローン活用について、講習会等での栽培マニュアルの配布及び実証結果の説明により啓発を行う。

関係者の役割

関係者名	岡山県 （美作広域農業普及指導センター）	JA晴れの国岡山農業協同組合 （津山統括本部）		
役割	被膜穀流出防止対策の啓発、技術指導	被膜穀流出防止対策の啓発、技術指導		